



緊急消防援助隊情報

平成23年度緊急消防援助隊 地域ブロック合同訓練の実施状況(中国・四国/近畿ブロック) 応急対策室

先月号に引き続き、今月号では平成23年度緊急消防援助隊地域ブロック合同訓練のうち、中国・四国ブロック合同訓練の実施状況及び近畿ブロック合同訓練の予定されていました訓練概要等について各ブロック担当県等からの寄稿によりお知らせします。

平成23年度緊急消防援助隊中国・四国ブロック合同訓練について

広島県危機管理監消防保安課

平成23年度緊急消防援助隊中国・四国ブロック合同訓練は、広島県福山市・尾道市において、次のとおり実施しました。

1. 実施日

平成23年10月20日(木)・21日(金)

2. 実施場所

(1) 本部等設置運営訓練 (20日)

広島県庁、福山市役所、福山地区消防組合消防局、尾道市消防局ほか

(2) 部隊参集訓練及び野営訓練 (20日)

広島県立ふくやま産業交流館第2駐車場、尾道市消防局、竹ヶ端運動公園ほか

(3) 部隊運用訓練 (21日)

箕沖町埋立地ほか

3. 実施内容

(1) 本部等設置運営訓練

広島県庁に災害対策本部及び消防応援活動調整本部、福山・尾道両市に災害対策本部、福山地区消防組合消防局及び尾道市消防局に消防対策本部及び指揮支援本部を設置して、実時間で進行する情報伝達訓練を行い、消防庁への緊急消防援助隊要請や知事による部隊移動の指示等を実施した。

また、広島県防災航空センターに航空隊指揮本部を設置し、調整本部と連動した図上訓練を行った。

《今後の課題》

○ 情報の整理・把握と伝達を有効なものにするため、本部員の事務分掌の整理或使用様式の検討などを行っていく必要がある。

○ 今回の図上訓練は、県・両市とも災害対策本部の体制を最小限として実施したが、実災害においては、災害対策本部と調整本部・消防対策本部・指揮支援本部の連携が重要であり、今後、より実災害に近い訓練を繰り返し実施し、災害対応能力の向上が必要である。



中高層建物消火・救助訓練

(2) 部隊参集訓練及び野営訓練

被災地を複数設定して、迅速出動要綱の区分Ⅱによる先遣隊の迅速出動及び知事要請に基づく出動を実時間で、

一部の陸上部隊については、進出途上での変更指示を行ったほか、知事の指示による部隊移動を実施した。

また、陸上部隊先遣隊・情報収集航空部隊及び各県指揮部隊が、活動拠点(部隊運用訓練会場)に進出して情報収集を行い、その結果に基づき野営訓練会場において、翌日の部隊運用訓練に係る活動調整ミーティングを行った。

《今後の課題》

○ 参集部隊の受入れについて、進出拠点の十分なスペースの確保や誘導員の配置など、東日本大震災の出動経験を生かした周到な受入れ態勢をつくることのできた。一方で、受援側消防本部の人的負担が大きいことも明らかとなったことから、今後、受入体制の検討を早期に進めていく必要がある。

○ 情報収集訓練及び活動調整ミーティングについては、実災害を想定したもので、参加消防本部・関係機関との連携が図られ円滑な活動に役立った。しかし、一部、ブライント型の趣旨に合わないとの意見もあったが、実災害においても関係機関における活動調整は必須であることを踏まえると実効性があったと考える。



図上訓練

(3) 部隊運用訓練

指揮支援部隊(広島市消防局)及び指揮支援隊(大阪市消防局、岡山市消防局)の部隊統制の下、各種訓練をブライント型で実施し、消防ヘリ及び海上保安庁ヘリによるヘリテレ映像伝送、自衛隊ブルドーザによる道路啓開、県警機動隊の工作車による救助活動、救助犬による検索、DMATによるトリアージ等、関係機関と連携した活動を行った。

航空部隊においても、各機関のヘリが連携し空中消火訓練を複数回実施するとともに、孤立者救助訓練等を実施したほか、海上自衛隊輸送艦くにさき内に広域搬送拠点臨時医療施設(SCU)を設置し、DMAT及び傷病者の搬送を行った。

《今後の課題》

○ 訓練に向けた協議や部隊運用訓練前日の活動調整等を通じて、自衛隊等関係機関との連携を深める機会となったと考える。しかし、DMAT等医療機関との連携につい



ては、情報伝達やDMAT隊員の現場活動時の安全管理を徹底するため、訓練を積み重ねる必要がある。

- 地域の特性に応じた訓練の実施により、所期の目的は達成したと考えるが、東日本大震災を踏まえ、今後とも地域ごとに想定される災害を訓練に取り入れるなど、実効性を高めていく必要がある。

4. おわりに

今回の訓練は、多数の機関に参加をいただき、本県の受援体制を検証する貴重な機会となりました。今後、訓練の成果・課題を踏まえて受援体制の強化に努めてまいります。

結びに、各関係機関の皆様の多大なご協力により、事故なく訓練を実施できましたことに、心から感謝申し上げます。

平成23年度緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練について

平成23年度緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練を、徳島県小松島市を主会場として次のとおり実施しました。

1. 実施日

平成23年10月29日（土）、30日（日）

2. 実施場所

- (1) 消防応援活動調整本部設置運営訓練、警防本部及び指揮支援本部設置運営訓練（29日）
徳島県庁、小松島市消防本部
- (2) 参集訓練（29日）
徳島県消防学校ほか
- (3) 迅速出動訓練、野営訓練（29日）
徳島・小松島港「赤石ふ頭東地区」、海上自衛隊小松島航空基地
- (4) 部隊運用訓練（30日）
徳島・小松島港「赤石ふ頭東地区」

3. 実施内容

訓練1日目は「徳島県小松島市を震源とするM7.5の直下型地震（小松島市震度6強）」として、迅速出動等についての検証を図り、2日目については「南海トラフを震源とする南海地震」を想定した訓練を実施した。

(1) 消防応援活動調整本部設置運営訓練

県庁内に徳島県消防応援活動調整本部、小松島市消防本部に警防本部及び指揮支援本部を設置し図上訓練を実施した。また、庁舎被害により、本来の本部設置場所での本部機能運営が不能となったことを想定し、本部機能の拡張が可能な仮設場所に本部機能を移転する訓練も実施した。

《今後の課題》

実災害を想定した訓練では、あえて終了までの間、調整本部員を増やすことなく

少人数のまま運営し、各情報も調整本部員がコントローラーへ情報を取りにいかない限り詳細情報が入ってこない形で進んだ。今後の課題として、本部員の作業分担の明確化と情報整理のためのルール作り、特に情報を集約する手段の確立と情報のトリアージに重要性を感じた。また、他府県隊へ短時間で徳島県の状況を伝えるため、情報提供用フォーマットを作成する必要があることが分かった。



土砂災害対応訓練

(2) 野営訓練

東日本大震災を踏まえ、自衛隊と緊急消防援助隊との連

徳島県危機管理部消防保安課

携協力が可能と思われる部分について検討を図るため、自衛隊基地内での緊急消防援助隊の野営訓練を実施し検証した。

《今後の課題》

自衛隊基地内における宿営では、車両122台、隊員476人が敷地内で野営を行ったが、災害対応の拠点として自衛隊基地施設を活用することは、様々な部分で緊急消防援助隊の負担軽減につながると思われる、今後も自衛隊との協力のもと、連携を図れる部分の洗い出しと調整を行う。

(3) 部隊運用訓練

より災害のイメージに近づけるため、訓練場内の元々の地形を利用し、整地が必要な部分以外は未整地のまま実施した。出動も先着隊と時間差を設けたほか、現場到着後に先着隊からの情報提供を元に活動を行うなどより実戦的な訓練として実施した。

《今後の課題》

出動隊の判断で決定が可能な部分と訓練進行上の制約部分の明確化について、今後更に検討が必要な訓練となった。

4. おわりに

本訓練は、東日本大震災という未曾有の大災害で得た教訓を、これから起こるであろう困難への道標とするため実施した訓練でした。災害対応における各種課題の抽出はもとより、市民の意識啓発の意味でも非常に有意義な訓練となりました。今後はこの課題の解消に向けた検討と、緊急消防援助隊の応援・受援体制の更なる充実強化に取り組んでまいりたいと考えております。訓練の実施に際し、各関係機関の皆様のご柔軟な対応とご協力により、無事に訓練が終了できましたことを、改めて心より感謝申し上げます。

終わりに東日本大震災により亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、罹災された皆様に心よりお見舞い申し上げ、被災地の一日も早い復旧、復興をお祈りいたします。



大規模街区火災及び倒壊家屋対応訓練



ビル倒壊事故対応訓練